

H25年度重点目標と取組について

運営方針1 活気あふれる学園づくり

【数値目標】基礎学力を持った入学生の確保：60名

《主な対策》

(1) 高校の進路指導への要請活動強化

- ① 県内全高校の訪問（公立48校・私立14校・通信制4校 計66校）
県内高校3年生全員に農大紹介チラシ配布。進路ガイダンス要請。オープンキャンパスへの生徒・保護者参加要請を強力に実施。
- ② 高校進路ガイダンスへの参加
公立3校、私立2校実施済み。地区別ガイダンス参加予定（別府・中津地区）
公立1校、私立1校予定。
- ③ 出前農大「先輩や教授陣が農大を語る会」（農業系全8校）
農業系高校中心に22校へ依頼文発送済み。
- ④ オープンキャンパスへの参加拡大（実施日：6月22日（土）、7月25日（木））
- ⑤ 県外高校への情報発信
実績校への情報提供

(2) 効果的な情報発信

- ① ホームページ適時更新と充実
新入生への農大情報取得調査結果
（高校の進路指導、保護者、ホームページ、新聞記事が多い）
- ② マスコミ掲載回数の増
昨年掲載回数23回（2/25まで）
今年度8回（3月以降）
- ③ 県下CATVへの取材要請
- ④ 大分市内での農大フェアの開催（4回）
昨年実績3回

運営方針2 質の高い教育の提供

【数値目標】全国大会出場 最低1名1課題

《主な対策》

(1) プロジェクト研究の高度化

- ① 農林水産研究指導センター・振興局との連携プロジェクトの充実強化（55課題）
今年度（H25） 農林水産研究指導センター：13課題（直接連携3課題）
振興局：12課題（うち農林水産研究指導センターとのダブリ5）
- ② 三重総合高校との高大連携プロジェクトの実施（5カ年計画・4年目）
- ③ 大分大学との連携プロジェクトの実施（6課題）
総合経営特別講座：科目「農村社会学」（大分大学山浦教授）
大分大学学生の研究論文を本校学生と共同で実施。
ヤンマー懸賞論文等へのチャレンジ。

(2) 農業法人等の期待に応えられる学生の育成

- ① 教養講座Ⅰ（農業数学）、教養講座Ⅱ（基礎数学）の充実
基礎数学は専門の講師を配置。
基礎学力確認テスト：平均点30点以下（1年生9人、2年生21人）
平均点

年度	1年生	2年生
24年度	31.8	27.1
25年度	43.5	33.6

②総合経営特別講座の実施

2年生6名（成績、意欲、進路等）

実施内容：農業簿記、消費者ニーズとマーケティング、企業経営論、アグリビジネス論、農業経営分析、農村社会学、

研修：県外先進農家インターンシップ（熊本県を想定、1週間程度）
流通研修（京都市場を想定、2週間程度）

- ③ JGAP 認証取得に向けた農場管理の実践（3カ年計画・2年目）
「農業生産工程管理手法」による野菜コース農場での取組を実施。
学生主体に JGAP「適合基準」に沿った管理点の改善を行う。

- ④日本農業技術検定合格者の確保（2級以上：10名）

7月20日（土）2・3級

12月14日（土）1・2・3級

運営方針3 新規就農者の確保

【数値目標】全学生・研修生の進路決定、就農率80%以上の確保

《主な対策》

（1）農学部2年生への密着指導及び進路先の確保

- ①農業法人との就職相談会の開催

7月5日（金）開催予定

参加法人数 ～ H23：29法人、H24：30法人

- ②農業法人での体験研修の促進

夏期休暇を利用した農業法人への見学、研修等の推進

- ③農業法人との情報交換

6月：卒業生の定着指導を兼ねた求人情報等の取得

（2）研修生の就農確保

- ①振興局との連携会（4回）の開催

- ②農業法人との就職相談会の開催・視察研修

（3）通信講座による就農への関心度向上

- ①中級者コースの新設と受講生の確保（20名）

・入門コース 23名決定済み（応募60名）

- ②就農相談会参加者の確保（6名）

相談会実施予定時期 入門コース 8月上旬 中級者コース 1月

《研修部の取組》

就農準備研修（初心者向け：野菜の戦略品目を主体に栽培管理技術等の習得）

- 長期コース（11ヶ月）

・定員20名（一般6名、職業訓練14名）→現員20名（充足）

- 中期コース（8ヶ月）

・定員5名（職業訓練5名）→今後募集予定

- 随時コース（3ヶ月程度）

・定員5名（一般5名）→2名受付（今後選考予定）

- 通信講座（「農」大好き！わかばネット）コース

（各コースとも定員20名：H25本格実施）

・入門コース（約3ヶ月）

・中級者コース（約5ヶ月）

テストファーム研修

（中級者向け：自ら栽培品目を決めて模擬農業経営を実践）

- 定員5名（11ヶ月）夏秋野菜（主にピーマン）→現員3名